

放置自転車アフリカへ

岡山市は放置自転車を有効活用しよう
と、アフリカ・ザンビア共和国で結核の撲滅を目指す支援活動をしている岡山市のNPO法人「AMDA社会開発機構」(鈴木俊介理事長)に自転車20台を寄贈した。自転車は同国の首都ルサカ市保健局に贈られ、保健ボランティア・結核治療サポーターの移動手段に活用される。

岡山市、NPOに寄贈

同機構によると、ルカサ市では5人に1人がHIVに、人口の2%が結核に感染しており、同機構

が支援活動を続ける同市の2地区でも約6000人の結核患者のうち約8割がHIVにも感染しているという。同機構は市保健局と共同で対策プロジェクトを進め、保健ボランティアの養成などに取り組んでいる。

寄贈した自転車は、岡山駅など10駅周辺に放置された自転車の一部。岡山市は毎年約1万1000台の放置自転車を撤去しており、「保健ボランティアの移動手段に使いたい」との同機構からの依頼を受け、寄贈を決めた。放置自転車の海外寄贈は今回が初めて。

自転車は9月にも現地に到着する見込み。これまで5〜10キロ離れた患者の自宅まで徒歩で訪問していた保健ボランティアの移動手段となり、結核の投薬指導や服薬確認、HIVに関する保健教育などを効率的に行えるよう期待されている。

高谷茂男市長は「放置自転車の有効活用のため、これらも贈りたい。途上国で利用してもらえば」とコメント。鈴木理事長も「自転車が活動を活性化させてくれるは



結核治療の移動に活用